

## 新庄盆地断層帯の長期評価の一部改訂について

### 1 長期評価の改訂とその公表

文部科学省（地震調査研究推進本部地震調査委員会）は、平成19年度に実施した補完調査などにより新たな知見が得られたことから、平成14年7月に公表した新庄盆地断層帯の長期評価の改訂を行い、5月19日17:00にその内容を公表した。

### 2 新庄盆地断層帯の長期評価の改訂内容

今回の長期評価では、従来、評価対象とされてきた断層（断層帯東部）の西側に位置する断層の長さが約17キロメートルにおよぶ新たな断層が認定されたため、これまでの断層帯を東部、新たな断層帯を西部とし、それぞれが単独で活動した場合の地震規模及び発生確率が示された。

なお、東部が東側に傾斜する断層、西部が西側に傾斜する断層であることから、東部と西部が同時に活動することはないと考えられている。

項目	前回の評価 (H14.7.10 公表)	今回の評価 (H23.5.19 公表)
長さ	約11～23 km (新庄市～舟形町)	東部：約22 km (新庄市～舟形町) 西部：約17 km (鮭川村～大蔵村)
最新活動時期	不明	東部：約6200年前以後、西部：不明
平均活動間隔	2000～4000年程度	東部：4000年程度、西部：4700年程度
地震の規模	M <sub>b</sub> .6～7.1程度	東部：7.1程度、西部：6.9程度
地震発生確率 (30年)	ほぼ0.7%～1%	東部：5%以下、西部：0.6%

### 3 地元説明会の開催

日時：平成23年6月10日（金）14:00～16:00

場所：最上総合支庁5階講堂

主催：文部科学省、山形県

参集範囲：県、市町村、消防本部など防災関係機関、報道関係者

説明内容：新庄盆地断層帯の長期評価の一部改訂について（文部科学省）など

### 4 県の対応

新庄盆地断層帯は、地震の規模という点においては前回の内容と差異はないと判断されるが、将来の活動性など不明確な点が多いため、地震調査研究推進本部における今後の調査結果を注視する。

このため、引き続き、大規模地震の発生に備え、被害の最小限化を図るため、建築物の耐震化や自主防災組織の育成強化、災害時要援護者対策の推進、広域応援体制の強化など、山形県地域防災計画の着実な実施を図る。

# 山形県の活断層

